輝く学年団を訪ねて

躍進を続ける中でも課題を直視し、自律的学習者の育成に向けて指導を再構築

北海道・私立札幌第一高校　2021年度3学年団

学年団が直面した課題

◎大学入試の合格実績は大きく飛躍していたが、教師たちは、補習や課題、追試で生徒を引っ張り続ける指導に限界を感じていた。

◎社会環境や生徒の気質が変化する中、教育活動の礎となってきた学校独自の進路指導プログラムを、より今の生徒に合った形に更新する必要があった。

学校概要

校訓に「目は高く 足は大地に」を掲げる北海道屈指の進学校。学習と部活動や特別活動を通じて、「知・情・意・体」の調和の取れた、世界でリーダーシップを発揮できる人材の育成に努める。進路指導プログラム「進路コンパス」と学習指導プログラム「学習コンパス」、そして、社会課題を発見し、その解決策を導きながら、社会貢献できる力を身につける活動「探究コンパス」という独自の教育プログラム、さらに、北海道大学を始めとする全国の難関大学への進学を目標とした学力向上の取り組み「HUP プロジェクト」を展開する。

設立　1958（昭和 33）年
形態　全日制／普通科／共学
生徒数　1 学年約 400 人
2022 年度入試合格実績（現浪計）　国公立大は、北海道大、東北大、筑波大、東京大、京都大、神戸大、九州大、札幌医科大などに 219 人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、中央大、東京理科大、早稲田大などに延べ 607 人が合格。

引っ張り上げる指導からの転換のため、自校伝統の指導をブラッシュアップ

北海道・私立札幌第一高校は特に近年、国公立大学合格者を順調に増やし、直近の2022年度大学入試では、北海道大学47人を含む国公立大学合格者219人という過去最高の成果を上げた。だが、その輝かしい成果の裏側には、進学実績が躍進する中でも生徒の実態に向き合い、指導の改善に取り組む同校の教師たちの姿があったと、同校に26年間勤務する佐藤祐介先生は振り返る。

「本校は、伝統的に放課後の補習や家庭学習に力を入れることで、生徒を引っ張り上げる指導を行ってきました。私たちの指導についてきてくれる生徒の頑張りを誇りに思いながらも、生徒は疲弊しているように見え、このままでは進学実績はいつか頭打ちになるのではないかという不安もありました」

17年度に道内屈指の公立進学校から転任してきた平田稔夫（としお）先生も、同様の課題感を覚えたと振り返る。

「生徒たちが『学校から与えられた課題をとにかくこなしていきさえすれば、学力は向上する』と思っているのであれば、それはこれからの時代を生きる生徒のためにならない。指導の転換が必要だと考えました」

19年度の1学年団に担任の1人として参加した平田先生は、当時の1学年主任と、進路指導のブラッシュアップに着手した。

「学年主任は、『学校が大好きな生徒』を育てたいと常々語っていました。そのような学年主任でしたから、生徒は疲弊しているのではないかといった自分が持っている課題感を率直に打ち明け、生徒を一律に引っ張り上げる指導から、生徒が自ら計画を立て、自律的に学習していくことを促す指導への転換を提案した時も共感してくれました」（平田先生）

進路指導のブラッシュアップとして具体的に取り組んだのは、同校の進路指導プログラム「進路コンパス」を、より今の生徒の実態に合ったものにしていくことだった。進路コンパスは、職業・学問調べ、志望学部・学科・大学選択など、進路選択に関する3年間の学習を体系化したプログラムで、生徒は毎回、教師が用意したワークシートなどに取り組む。01年度に同プログラムが構築されて以来、同校の躍進を下支えしてきたが、近年の生徒を取り巻く環境の変化に伴い、修正が必要な点も見えてきたと、同校の卒業生でもある佐藤亮介先生は説明する。

「進路コンパスには、課題の提出状況や学習時間を記録させるなど、教師が生徒を引っ張り上げるための指導が多く盛り込まれてい

リーダーに聞く！5つのQ&A

Q どのようなチームを目指しましたか？

A 生徒のことについてたくさん話しながら、同じ方向を目指していくチームです。

Q リーダーとして心がけていることは？

A 先生方一人ひとりの顔を見ながら、「何か困り事を抱えていないだろうか」と想像することです。そうすると、会議の中で出てきた言葉や、保護者などとの電話対応の様子を見聞きした時に、「何かあったの？」と声をかけることができるからです。

Q 学年団としての「成功」は？

A 多くの生徒が、納得して新しい進路に前向きに踏み出すことです。そして、そのことに対する喜びを、学年団の先生方と共有することです。

Q リーダーとして自覚する長所は何ですか？

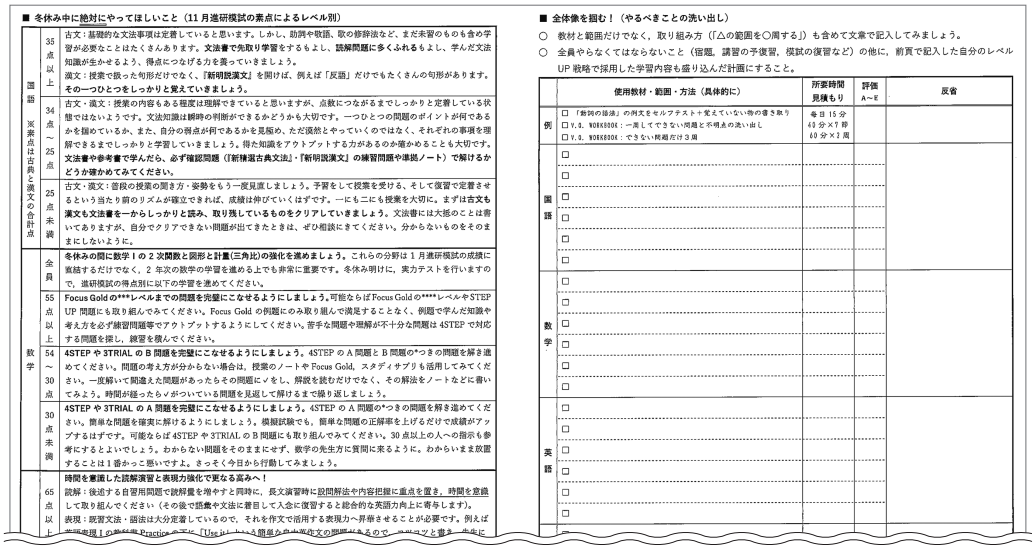
A 相手が生徒であれ、同僚の先生方であれ、一緒に一生懸命やっていこうという思いをストレートに伝えられるところです。

Q リーダーとして自覚する短所は何ですか？

A 熟考しがちなため、新しいことを始める際に時間の余裕がなくなることがあります。先生方が余裕を持って取り組めるように、判断のスピードを上げたいです。

ました。今の生徒たちの実態を踏まえて、一人ひとりの生徒にどのように成長していってほしいかを考えながら、進路コンパスをブラッシュアップしたいと思いました」

図　自律的な学習を促すワークシート



■ 冬休み中に絶対にやってほしいこと（11月進研模試の素点によるレベル別）

国語 ※素点は古典と漢文の合計点	35点以上	古文：基礎的な文法事項は定着していると思います。しかし、助詞や敬語、歌の修辞法など、まだ未習のものも含め学習が必要なことはたくさんあります。**文法書で先取り学習**をするもよし、**読解問題に多くふれる**もよし、学んだ文法知識が生かせるよう、得点につなげる力を養っていきましょう。 漢文：授業で扱った句形だけでなく、『新明説漢文』を開けば、例えば「反語」だけでもたくさんの句形があります。**その一つひとつをしっかりと覚えていきましょう。**
	34点～25点	古文・漢文：授業の内容もある程度は理解できていると思いますが、点数につながるまでしっかりと定着している状態ではないようです。文法知識は瞬時の判断ができるかどうかも大切です。一つひとつの問題のポイントが何であるかを掴めているか、また、自分の得点が何であるかを見版め、ただ漠然とやっていくのではなく、それぞれの事項を理解できるまでしっかりと学習していきましょう。得た知識をアウトプットする力があるのか確かめることも大切です。**文法書や参考書で学んだら、必ず確認問題（『新精選古典文法』・『新明説漢文』の練習問題や準拠ノート）で解けるかどうか確かめてみてください。**
	25点未満	古文・漢文：普段の授業の聞き方・姿勢をもう一度見直しましょう。予習をして授業を受ける、そして復習で定着させるという当たり前のリズムが確立できれば、成績は伸びていくはずです。一にも二にも授業を大切に。まずは**古文も漢文も文法書を一からしっかりと読み、取り残しているものをクリアしていきましょう。**文法書には大抵のことは書いてありますが、自分でクリアできない問題が出てきたときは、ぜひ相談にきてください。分からないものをそのままにしないように。
数学	全員	**冬休みの間に数学Ⅰの２次関数と図形と計量(三角比)の強化を進めましょう。**これらの分野は１月進研模試の成績に直結するだけでなく，２年次の数学の学習を進める上でも非常に重要です。冬休み明けに，実力テストを行いますので，進研模試の得点別に以下の学習を進めてください。
	55点以上	**Focus Gold の***レベルまでの問題を完璧にこなせるようにしましょう。**可能ならばFocus Gold の****レベルやSTEP UP 問題にも取り組んでみてください。Focus Gold の例題にのみ取り組んで満足することなく、例題で学んだ知識や考え方を必ず練習問題等でアウトプットするようにしてください。苦手な問題や理解が不十分な問題は 4STEP で対応する問題を探し，練習を積んでください。
	54～30点	**4STEP や 3TRIAL の B 問題を完璧にこなせるようにしましょう。**4STEP の A 問題と B 問題の*つきの問題を解き進めてください。問題の考え方が分からない場合は，授業のノートや Focus Gold，スタディサプリも活用してみてください。一度解いて間違えた問題があったらその問題にメをし、解説を読むだけでなく、その解法をノートなどに書いてみよう。時間が経ったメがついている問題を見返して解けるまで繰り返しましょう。
	30点未満	**4STEP や 3TRIAL の A 問題を完璧にこなせるようにしましょう。**4STEP の A 問題の*つきの問題を解き進めてください。簡単な問題を確実に解けるようにしましょう。模擬試験でも，簡単な問題の正解率を上げるだけで成績がアップするはずです。可能ならば 4STEP や 3TRIAL の B 問題にも取り組んでみてください。30 点以上の人への指示も参考にするとよいでしょう。わからない問題をそのままにせず、数学の先生方に質問に来るように。わからいまま放置することは１番かっこ悪いですよ。さっそく今日から行動してみましょう。
	65点以上	**時間を重視した読解演習と表現力強化で更なる高みへ！** 読解：後述する自習用問題で読解量を増やすと同時に，長文演習時に設問解法や内容把握に重点を置き，時間を意識して取り組んでください（その後で語彙や文法に着目して入念に復習すると総合的な英語力向上に寄与します）。 表現：既習文法・語法は大分定着しているので，それを作文で活用する表現力へ昇華させることが必要です。例えば 英語表現Ⅰの教科書 Practice の下に「Use は」という簡単な自由英作文の問題があるので、一度ノートと書き、先生に

■ 全体像を掴む！（やるべきことの洗い出し）

○　教材と範囲だけでなく，取り組み方（「△の範囲を○周する」）も含めて文章で記入してみましょう。

○　全員やらなくてはならないこと（宿題，講習の予復習，模試の復習など）の他に，前頁で記入した自分のレベル UP 戦略で採用した学習内容も盛り込んだ計画にすること。

	使用教材・範囲・方法（具体的に）	所要時間見積もり	評価 A～E	反省
例	□「教例の語法」の例文をセルフテスト＆覚えていない物の書き取り □Y.S. WORKBOOK：一周してできない問題と不明点の洗い出し □Y.S. WORKBOOK：できない問題だけ３周	毎日 15 分 40 分×7 回 40 分×3 周		
国語	□ □ □ □ □ □			
数学	□ □ □ □ □ □			
英語	□ □ □ □ □ □			

模擬試験を自律的な学習習慣の確立の契機とするため、進路コンパスのワークシートを改訂。教科ごとに進研模試の素点によるレベル別の学習アドバイスを伝えた上で、生徒自身に学習戦略を立案させ、担任との面談へとつなげた。※学校資料をそのまま掲載。

確かに、以前は生徒全員に対して、一律に、一定量の学習を求めるべき時期もあったが、今は生徒たち一人ひとりに、何を、どのように学習していくべきなのかを考えさせることが、より重要だと平田先生は考えた。

「これからの時代を生きる上で求められるのは、目標に向けて自ら戦略を立て、それを実行する力です。そこで、生徒自身に学習計画を立てさせることを通じて、受験本番まで自分で戦略的に学習を進められる生徒を育てようと、学年団の先生方に提案しました」

学習にかかわるワークシートを、いつ、どれくらい勉強したかを記録させる形式から、自分で見極めた重点学習分野について、どのように学習するのかを具体的に考えさせる形式に改訂し、その記載を基に、担任は生徒と1年次から学習戦略について語り合った。また、模擬試験や定期考査の前後には、各教科の担当教師から、習熟度別などの観点で学習方法を生徒に例示することで、生徒が主体的に学習計画を立案することができるよう、支援を行った（**図**）。

希望進路への思いを、自分の言葉で語らせる

進路コンパスのブラッシュアップの過程では、生徒が志望校への思いを言葉にする機会を設けることを重視した。例えば、以前は「志望校に合格するためには、どれくらい成績を伸ばす必要があるか」を聞いていた進路コンパスのワークシートを、「どうしてその大学を志望しているのか」を丁寧に聞く形に改訂した。自分の志望が偏差値だけに基づくものではなく、大学での学びや職業観、生き方とつながっているものであることを、自分の言葉で表現させたかったのだ。

「最初は、『この大学を目指すのは、偏差値が高いから』とだけ書く生徒もいました。そういった生徒には、私たち担任が個別に面談を行い、社会問題への関心などを言葉にさせていきました。そうすることで、生徒の第1志望は強固なものになるとともに、大学名ではなく、学問分野で志望校を考えるようになったため、第2、第3志望も定まりやすくなりました」（佐藤亮介先生）

進路コンパスの改訂にあたっては、資質・能力という観点も大切にした。

「『将来、金融業界で働きたいから経済学部を志望』といったように、職業と大学・学部・学科をダイレクトにつなげるだけではなく、金融業界でどんな仕事をしたいのか、そこではどんな資質・能力が求められるのか、そうした資質・能力は、高校や大学で、何を、どのように学ぶことで自分の中に育まれるのかを考えさせたいという思いで、進路コンパス

を見直しました」（佐藤亮介先生）

学年団で育てたのは、「学校が大好きな生徒」

学年団の担任たちは、自律的学習者の育成を目指し、生徒の言葉に耳を傾け、生徒を支えた。小川佳那子先生は、「生徒は教師と密にコミュニケーションを取れているから、安心して主体性を発揮できる」と語る。

「生徒がワークシートに進路目標やその実現のための学習計画を書いたら、自分が高校生の時に描いた進路志望やその実現のために立てた戦略を生徒に伝えました。教師とのコミュニケーションの中で、生徒は自ら掲げた目標の達成のために自分は何をすべきかを主体的に考えたから、教師に引っ張り上げられるのを待つのではなく、自ら学習に取り組むことができたのだと思います」

2年次の途中から学年主任を引き継いだ平田先生は、時間の経過とともに、学年団の教師たちがクラスを超えて生徒のことを語るようになったと振り返る。

「生徒の自律的な学習を見守る中で、生徒の中に発見した小さな変化や成長を、職員室でいつも語り合っていました。進路コンパスが、単なる記録や調査票ではなく、自律・自走という視点から生徒を見取るツールになったのです」（平田先生）

学年団の教師が生徒に寄り添い、生徒の主体的なアクションを見守ったから、「学校が大好きな生徒」を育てることができたと、平田先生は語る。その結果が、22年度大学入試でのさらなる躍進として実を結んだのだ。

「今年の2月、札幌は記録的な大雪に見舞われましたが、多くの3年生が学校に足を運びました。学校で仲間や先生と頑張れば、きっと受験はうまくいくという気持ちだったのだと思います」（平田先生）

生徒を引っ張り上げる指導から、生徒の自走を促す支援へと変革を果たした学年団の指導マインドは、学校全体へと引き継がれようとしている。

「私は22年度の1学年主任を務めていますが、平田先生の学年団に所属した先生方がたくさん1学年団にいて、とても心強いです。ブラッシュアップされた進路コンパスを、平田学年団の経験とともに受け継ぎ、さらに生徒に合ったものへと、先生方と一緒に磨き上げていきます」（佐藤祐介先生）

21年度3学年主任・担任
現進路指導部副部長
平田稔夫 ひらた・としお
教職歴35年。同校に赴任して6年目。理科。

21年度3学年担任・進路指導部学年チーフ
現1学年担任
佐藤亮介 さとう・りょうすけ
教職歴6年。同校に赴任して7年目。英語科。

21年度3学年担任
現1学年担任・入試広報部
小川佳那子 おがわ・かなこ
教職歴11年。同校に赴任して5年目。理科。

現1学年主任・教務部
佐藤祐介 さとう・ゆうすけ
教職歴26年。同校に赴任して27年目。地理歴史・公民科。

学年団 輝きのポイント

- 生徒を引っ張り上げる指導から、自律的学習者へと育てる指導に転換を図った
- 進路指導プログラムの改訂にあたっては、生徒の実態を重視し、改訂後は、生徒と対話を重ねながら、主体性を引き出した